校異源氏物語・夕きり

まめひとのなをとりてさかしかり給大将この一条の宮の御ありさまをなをあらまほしと心にとゝめておほかたの人めにはむかしをわすれぬようういにみせつゝいとねんころにとふらひきこえ給したの心にはかくてはやむましくなむ月日にそへておもひまさり給ける宮す所もあはれにありかたき御心はへにもあるかなといまはいよ　く物さひしき御つれ　くをたえすをとつれ給になくさめ給事ともおほかりはしめよりけさうひてもきこえ給はさりしにひきかへしけさふはみなまめかむもまはゆしたゝふかき心さしをみえたてまつりてうちとけ給おりもあらしやはとおもひつゝさるへきことにつけても宮の御けはひありさまをみ給みつからなときこえ給ことはさらになしいかならむついてにおもふ事をもまほにきこえしらせて人の御けはひをみむとおほしわたるに宮す所ものゝけにいたうわつらひ給てをのといふわたりにやま里もたまへるにわたりたまへりはやうより御いのりのしにものゝけなとはらひすてけるりし山こもりして里にいてしとちかひたるをふもとちかくてさうしおろし給ゆへなりけり御車よりはしめて御前なと大将とのよりそたてまつれ給へるを中　くむかしのちかきゆかりのきみたちはことわさしけきをのかしゝのよのいとなみにまきれつゝえしもおもひいてきこえ給はす弁の君はたおもふ心なきにしもあらてけしきはみけるにことのほかなる御もてなしなりけるにはしゐてえまてとふらひ給はすなりにたりこの君はいとかしこうさりけなくてきこえなれ給にためりすほうなとせさせ給ときゝてそうのふせ上えなとやうのこまかなる物をさへたてまつれ給なやみ給人はえきこえ給はすなへてのせしかきはものしとおほしぬへくこと　くしき御さまなりと人〳〵きこゆれは宮そ御返きこえ給いとおかしけにてたゝひとくたりなとおほとかなるかきさまことはもなつかしき所かきそへ給へるをいよ　くみまほしうめとまりてしけうきこえかよひ給猶ついにあるやうあるへきやう御なからひなめりと北方けしきとり給へれはわつらはしくてまうてまほしうおほせととみにえいてたちたまはす八月中の十日はかりなれは野へのけしきもおかしきころなるに山さとのありさまのいとゆかしけれはなにかしりしのめつらしうおりたなるにせちにかたらふへき事あり宮す所のわつらひ給なるもとふらひかて

らまうてんとおほかたにそきこえていて給御前こと　くしからてしたしきかき
り五六人はかりかり衣にてさふらふことにふかき道ならねとまつかさきのを山
の色なともさるいはほならねと秋の気色つきて宮こににになくとつくしたるいへ
ゐにはなをあはれもけうもまさりてそみゆるやはかなきこしはかきもゆへある
さまにしなしてかりそめなれとあてはかにすまひなし給へりしん殿とおほしき
ひんかしのはなちいてにすほうのたんぬりて北のひさしにおはすれはにしおも
てに宮はおはします御ものゝけむつかしとてとゝめたてまつり給けれといかて
かはなれたてまつらんとしたひわたり給へるを人にうつりちるをおちてすこし
のへたてはかりにあなたにはわたしたてまつり給はすまらうとのゐたまふへき
所のなけれは宮の御方のみすのまへにいれたてまつりて上らうたつ人〳〵御せう
そこきこえつたふいとかたしけなくかうまての給はせわたらせ給へるをなむも
しかひなくなりはてはへりなはこのかしこまりをたにきこえさせてやとおもひ
給ふるをなむいましはしかけとゝめまほしき心つきはへりぬるときこえいたし
給へりわたらせ給し御をくりにもとおもふ給しを六条院にうけたまはりさした
ること侍しほとにてなんひころもそこはかとなくまきるゝ事侍ておもひ給ふる
心のほとよりはこよなくをろかに御覧せらるゝ事のくるしう侍るなときこえ給
宮はおくのかたにいとしのひておはしませとこと　くしからぬたひの御しつら
ひあさきやうなるおましのほとにて人の御けはひをのつからしるしいとやはら
かにうちみしろきなとし給御そのをとなひさはかりなゝりときゝゐたまへり心
も空におほえてあなたの御せうそこかよふ程すこしとをうへたゝるひまにれい
の少将の君なとさふらふ人〳〵にものかたりなとし給てかうまいりきなれうけ給
はる事のとし比といふはかりになりにけるをこよなうものとをふもてなさせ給
へるうらめしさなむかゝるみすのまへにて人つての御せうそこなとのほのかに
きこえつたふる事よまたこそならはねいかにふるめかしきさまに人〳〵ほゝゑみ
給らんとはしたなくなんよはひつもらすかるらかなりしほとにほのすきたるか
たにおもなれなましかはかううい　くしうもおほえさらましさらにかはかりす
く　くしうおれてとしふる人はたくひあらしかしとの給けにいとあなつりにく
けなるさまし給つれはされはよと中　くなる御いらへきこえいてむははつかし
うなとつきしろひてかゝる御うれへきこしめししらぬやうなりと宮にきこゆれ
はみつからきこえ給はさめるかたはらいたさにかはりはへるへきをいとおそろ
しきまてものし給ふめりしをみあつかひ侍しほとにいとゝあるかなきかの心ち
になりてなんえきこえぬとあれはこは宮の御せうそこかとゐなほりて心くるし

き御なやみをみにかふはかりなけききこえさせ侍もなにのゆへにかゝたしけなけれとものをおほししる御ありさまなとはれ　くしきかたにもみたてまつりなをし給まてはたひらかにすくし給はむこそたか御ためにもたのもしきことにははへらめとおしはかりきこえさするによりなむたゝあなたさまにおほしゆつりてつもりはへりぬる心さしをもしろしめされぬはほいなき心ちなむときこえ給けにと人〻もきこゆ日いりかたになりゆくに空のけしきもあはれにきりわたりて山のかけはをくらき心ちするにひくらしのなきしきりてかきほにおふるなてしこのうちなひける色もおかしうみゆまへのせんさいの花ともは心にまかせてみたれあひたるに水のをといとすゝしけにて山おろし心すこく松のひゝきこふかくきこえわたされなとしてふたの経よむときかはりてかねうちならすにたつこゑもゐかはるもひとつにあひていとたうとくきこゆところからよろつの事心ほそうみなさるゝもあはれにものおもひつゝけらる出給はん心ちもなしりしもかちするをとしてたらにいとたうとくよむなりいとくるしけにし給なりとて人〻もそなたにつとひておほかたもかゝるたひ所にあまたまいらさりけるにいとゝ人すくなにて宮はなかめ給へりしめやかにておもふこともうち出つへきおりかなとおもひゐ給へるにきりのたゝこののきのもとまてたちわたれはまかてんかたもみえすなり行はいかゝすへきとて

　山さとのあはれをそふるゆふきりにたちいてん空もなき心ちしてときこえ給へは

　やまかつのまかきをこめてたつきりも心そらなる人はとゝめすほのかにきこゆる御けはひになくさめつゝまことにかへるさわすれはてぬ中空なるわさかないへちはみえすきりのまかきはたちとまるへうもあらすやらはせ給つきなき人はかゝる事こそなとやすらひてしのひあまりぬるすちもほのめかしきこえ給にとしころもむけにみしり給はぬにはあらねとしらぬかほにのみもてなし給へるをかくことにいてゝうらみきこえ給をわつらはしうていとゝ御いらへもなけれはいたうなけきつゝ心のうちに又かゝるおりありなんやとおもひめくらし給なさけなうあはつけきものにはおもはれたてまつるともいかゝはせむおもひわたるさまをたにしらせたてまつらんとおもひて人をめせは御つかさのそうよりかうふりえたるむつましき人そまいれるしのひやかにめしよせてこのりしにかならすいふへき事のあるをこしんなとにいとまなけなめるたゝいまはうちやすむらむこよひこのわたりにとまりてそやのしはてん程にかのゐたるかたにものせむこれかれさふらはせよすいしんなとのをのこともはくるすのゝさうちかゝ

らむまくさなととりかはせてこゝに人あまたこゑなせそかうやうのたひねはかる　くしきやうに人もとりなすへしとの給あるやうあるへしと心えてうけたまはりてたちぬさてみちいとたと　くしけれはこのわたりにやとかり侍るおなしうはこのみすのもとにゆるされあらなむあさりのおるゝほとまてなとつれなくの給れいはかやうになかゑしてあされはみたるけしきもみえ給はぬをうたてもあるかなと宮おほせとことさらめきてかるらかにあなたにはひわたり給は人もさまあしき心地してたゝをとせておはしますにとかくきこえよりて御せうそこきこえつたへにゑさりいる人のかけにつきていり給ぬまたゆふ暮のきりにとちられてうちはくらくなりにたるほとなりあさましうてみかへりたるに宮はいとむくつけうなり給うて北のみさうしのとにゑさりいてさせ給をいとようたとりてひきとゝめたてまつりつ御身は入はて給へれと御そのすそののこりてさうしはあなたよりさすへき方なかりけれはひきたてさして水のやうにわなゝきおはす人ゝもあきれていかにすへきことともえおもひえすこなたよりこそさすかねなともあれいとわりなくてあら　くしくはえひきかなくるへくはたものし給はねはいとあさましうをもたまへよらさりける御心のほとになむとなきぬはかりにきこゆれとかはかりにてさふらはむか人よりけにうとましうめさましうおほさるへきにやはかすならすとも御みゝなれぬるとし月もかさなりぬらむとていとのとやかにさまよくもてしつめて思事をきこえしらせ給きゝいれ給へくもあらすくやしうかくまてとおほすことのみやるかたなけれはの給はむことはたましておほえ給はすいと心うくわか　くしき御さまかな人しれぬこゝろにあまりぬるすき　くしきつみはかりこそ侍らめこれよりなれすきたる事はさらに御心ゆるされては御覧せられしいかはかりちゝにくたけはへるおもひにたえぬそやさりともをのつから御覧ししるふしも侍らんものをしひておほめかしうけうとうもてなさせ給めれはきこえさせんかたなさにいかゝはせむ心ちなくにくしとおほさるともかうなからくちぬへきうれへをさたかにきこえしらせ侍らんとはかりなりいひしらぬ御けしきのつらきものからいとかたしけなけれはとてあなかちになさけふかうよういし給へりさうしをおさへ給へるはいと物はかなきかためなれとひきもあけすかはかりのけちめをとしひておほさるらむこそあはれなれとうちはらひてうたて心のまゝなるさまにもあらす人の御有さまのなつかしうあてになまめいたまへる事さはいへとことにみゆよとゝもにものをおもひ給けにややせ　くにあえかなる心地してうちとけ給へるまゝの御袖のあたりもなよひかにけちかうしみたるにほひなととりあつめてらうたけにやはらかなる

心ちし給へりかせいと心ほそうふけゆく夜のけしきむしのねもしかのなくねもたきのをともひとつにみたれてえむあるほとなれはたゝありのあはつけ人たにねさめしぬへき空のけしきをかうしもさなから入方の月の山のはちかき程とゝめかたふものあはれなりなをかうおほししらぬ御ありさまこそかへりてはあさう御心のほとしらるれかうよつかぬまてしれ　くしきうしろやすさなともたくひあらしとおほえはへるをなに事にもかやすきほとの人こそかゝるをはしれ物なとうちはらひてつれなき心もつかふなれあまりこよなくおほしおとしたるにえなむしつめはつましき心ちしはへる世中をむけにおほししらぬにしもあらしをとよろつにきこえせめられ給ていかゝいふへきとわひしうおほしめくらす世をしりたるかたの心やすきやうにおり　くほのめかすもめさましうけにたくひなきみのうさなりやとおほしつゝけ給にしぬへくおほえ給うてうきみつからのつみをおもひしるとてもいとかうあさましきをいかやうにおもひなすへきにかはあらむといとほのかにあはれけにないたまふて

われのみやうき世をしれるためしにてぬれそふ袖のなをくたすへきとの給ともなきをわか心につゝけてしのひやかにうちすし給へるもかたはらいたくいかにいひつる事そとおほさるゝにけにあしうきこえつかしなとほゝゑみ給へるけしきにて

大かたはわれぬれきぬをきせすともくちにし袖のなやはかくるゝひたふるにおほしなりねかしとて月あかきかたにいさなひきこゆるもあさましとおほす心つようもてなし給へとはかなう引よせたてまつりてかはかりたくひなき心さしを御覧ししりて心やすうもてなしたまへ御ゆるしあらてはさらに　くといとけさやかにきこえ給ふほとあけかたちかふなりにけり月くまなふすみわたりてきりにもまきれすさしいりたりあさはかなるひさしの軒はほともなき心ちすれは月のかほにむかひたるやうなるあやしうはしたなくてまきらはし給へるもてなしなといはむかたなくなまめきたまへりこきみの御こともすこしきこえいてゝさまようのとやかなる物かたりをそきこえ給ふさすかになをかのすきにしかたにおほしおとすをはうらめしけにうらみきこえ給御心の内にもかれはくらゐなともまたをよはさりけるほとなからたれ　くも御ゆるしありけるにをのつからもてなされてみなれ給にしをそれたにいとめさましき心のなりにしさまゝしてかうあるましきことによそにきくあたりにたにあらすおほ殿なとのきゝおもひ給はむ事よなへての世のそしりをはさらにもいはす院にもいかにきこしめしおもほされんなとはなれぬこゝかしこの御心をおほしめくらすにいと口おしう

わかこゝろひとつにかうつようおもふとも人のものいひいかならん宮す所のし
り給はさらむもつみえかましうかくきゝたまひて心をさなくとおほしの給はむ
もわひしけれはあかさてたにいて給へとやらひきこえ給よりほかのことなしあ
さましやことありかほにわけはへらんあさつゆのおもはむところよなをさらは
おほししれよおこかましきさまをみえたてまつりてかしこうすかしやりつとお
ほしはなれむこそそのきはゝ心もえおさめあふましうしらぬことゝけしからぬ
心つかひもならひはしむへう思給へらるれとていとうしろめたく中　くなれと
ゆくりかにあされたることのまことにならはぬ御心ちなれはいとをしうわか御
みつからも心をとりやせむなとおほいてたか御ためにもあらはなるましき程の
きりにたちかくれていて給心ちそらなり

　おきはらや軒はの露にそほちつゝやへたつきりをわけそゆくへきぬれころ
もはなをえほさせ給はしかうわりなふやらはせ給御心つからこそはときこえ給
けにこの御名のたけからすもりぬへきを心のとはむにたにくちきよふこたへん
とおほせはいみしうもてはなれ給

　わけゆかむ草はの露をかことにてなをぬれきぬをかけんとやおもふめつら
かなることかなとあはめ給へるさまいとおかしうはつかしけなりとしころ人に
たかへる心はせ人になりてさま　くになさけをみえ奉るなこりなくうちたゆめ
すき　くしきやうなるかいとほしう心はつかしけなれはをろかならすおもひか
へしつゝかうあなかちにしたかひきこえてものちをこかましくやとさま　くに
おもひみたれつゝいて給みちの露けさもいとゝころせしかやうのありきならひ
給はぬ心ちにおかしうも心つくしにもおほえつゝとのにおはせは女君のかゝる
ぬれをあやしととかめ給ぬへけれは六条院のひむかしのおとゝにまうて給ひぬ
またあさきりもはれすましてかしこにはいかにとおほしやるれいならぬ御あり
きありけりと人〻はさゝめくしはしうちやすみ給て御そぬきかへ給つねに夏冬
といとときよらにしをき給へれはかうの御からひつよりとうてゝたてまつり給御
かゆなとまいりて御前にまいりたまふかしこに御ふみたてまつり給へれと御ら
むしもいれすにはかにあさましかりしありさまめさましうもはつかしうもおほ
すに心つきなくて宮す所のもりきゝ給はむこともいとはつかしう又かゝることや
とかけてしり給はさらむにたゝならぬふしにてもみつけ給ひ人の物いひかくれ
なきよなれはをのつからきゝあはせてへたてけるとおほさむかいとくるしけれ
は人〻ありしまゝにきこえもらさなむうしとおほすともいかゝはせんとおほすおやこの御中ときこゆるなかにもつゆへたてすそおもひかはし給へるよその

人はもりきけともおやにかくすたくひこそはむかしのものかたりにもあめれとさはたおほされす人ゝはなにかはほのかにきゝ給てことしもありかほにとかくおほしみたれむまたきに心くるしなといひあはせていかならむとおもふとちこの御せうそこのゆかしきをひきもあけさせ給はねは心もとなくてなをむけにきこえさせ給はさらむもおほつかなくわか　くしきやうにそはへらむなときこえてひろけたれはあやしうなに心もなきさまにて人にかはかりにてもみゆるあはつけさのみつからのあやまちにおもひなせとおもひやりなかりしあさましさもなくさめかたくなむえみすとをいへとことのほかにてよりふさせ給ぬさるはにくけもなくいと心ふかふかいたまふて

　たましいをつれなき袖にとゝめをきてわか心からまとはるゝかなほかなるものはとかむかしもたくひ有けりとをもたまへなすにもさらにゆくかたしらすのみなむなといとおほかめれと人はえまほにもみすれいのけしきなるけさの御ふみにもあらさめれとなをえおもひはるけす人ゝは御けしきもいとおしきをなけかしうみたてまつりつゝいかなる御ことにかはあらむなにことにつけてもありかたふあはれなる御心さまはほとへぬれとかゝるかたにたのみきこえてはみをとりやし給はむとおもふもあやうくなとむつましうさふらふかきりはをのかとちおもひみたる宮す所もかけてしり給はすものゝけにわつらひ給ふ人はをもしとみれとさはやき給ひまもありてなむものおほえ給日中の御かちはてゝあさりひとりとゝまりてなをたらによみ給よろしうおはしますよろこひて大日如来そらことし給はすはなとてかかくなにかしか心をいたしてつかふまつる御す法しるしなきやうはあらむあくりやうはしふねきやうなれとこふしやうにまとはれたるはかなものなりとこゑはかれていかり給いとひしりたちすく　くしきりしにてゆくりもなくそよやこの大将はいつよりこゝにはまいりかよひ給そととひ申給宮す所さる事もはへらす故大納言のいとよき中にてかたらひつけたまへる心たかへしとこのとしころさるへき事につけていとあやしくなむかたらひものし給ふもかくふりはへわつらふをとふらひにとてたちより給へりけれはかたしけなくきゝはへりしときこえ給いてあなかたはなにかしにかくさるへきにもあらすけさこやにまうのほりつるにかのにしのつまとよりいとうるはしきおとこのいて給へるをきりふかくてなにかしはえみわいたてまつらさりつるをこの法しはらなむ大将殿のいて給なりけりとよへも御車もかへしてとまり給にけるとくち　く申つるけにいとかうはしきかのみちてかしらいたきまてありつれはけにさなりけりとおもひあはせはへりぬるつねにいとかうはしうものし給君な

りこの事いとせちにもあらぬ事なり人はいというそくにものし給なにかしらもわらはにものし給うし時よりかのきみの御ための事はす法をなんこ大宮のゝ給つけたりしかはいかうにさるへきことといまにうけ給はる所なれといとやくなしほむさいつよくものし給さる時にあへるそうるいにていとやむことなしわかきみたちは七八人になり給ぬえみこのきみをしたまはしまた女人のあしき身をうけ長やのやみにまとふはたゝかやうのつみによりなむさるいみしきむくいをもうくるものなる人の御いかりいてきなはなかきほたしとなりなむもはらうけひかすとかしらふりてたゝいひにいひはなてはいとあやしきことなりさらにさるけしきにもみえ給はぬ人なりよろつ心ちのまとひにしかはうちやすみてたいめせむとてなむしはしたちとまり給へるとこゝなるこたちいひしをさやうにてとまり給へるにやあらむおほかたいとまめやかにすくよかにものし給人をとおほめいたまひなから心のうちにさることもやありけむたゝならぬ御けしきはおり

くみゆれと人の御さまのいとかと　くしうあなかちに人のそしりあらむことははふきすてうるはしたち給へるにたはやすく心ゆるされぬことはあらしとうちとけたるそかし人すくなにておはするけしきをみてはひ入もやし給へりけむとおほすりしたちぬるのちにこ少将の君をめしてかゝることなむきゝつるいかなりしことそなとかをのれにはさなんかくなむとはきかせ給はさりけるさしもあらしとおもひなからとの給へはいとおしけれと初よりありしやうをくはしうきこゆけさの御ふみのけしき宮もほのかにの給はせつるやうなときこえとしころしのひわたり給ける心のうちをきこえしらせむとはかりにや侍けむありかたうよういありてなむあかしもはてゝいて給ぬるを人はいかにきこえ侍にかりしとはおもひもよらてしのひて人のきこえけるとおもふもののもの給はていとうくくちおしとおほすになみたほろ　くとこほれ給ぬみたてまつるもいといとおしうなにゝありのまゝにきこえつらむくるしき御心ちをいとゝおほしみたるらむとくやしうおもひゐたりさうしはさしてなむとよろつによろしきやうにきこえなせととてもかくてもさはかりになにのようにもなくかるらかに人にみえ給けむこそいといみしけれ内　くのみ心きようおはすともかくまていひつるほうしはらよからぬわらはへなとはまさにいひのこしてむや人はいかにいひあらかいさもあらぬことゝいふへきにかあらむすへて心をさなきかきりしもこゝにさふらひてともえの給ひやらすいとくるしけなる御心ちにものをおほしおとろきたれはいと　くおしけなるけたかうもてなしきこえむとおほいたるによつかはしうかる　くしきなのたちたまふへきををろかならすおほしなけかるかうすこし

ものおほゆるひまにわたらせ給へうきこえよそなたへまいりくへけれとうこきすへうもあらてなむみたてまつらてひさしうなりぬる心ちすやとなみたをうけての給ふまいりてしかなんきこえさせ給とはかりきこゆわたり給はむとて御ひたひかみのぬれまろかれたるひきつくろひひとへの御そほころひたるきかへなとしたまてもとみにもえうこい給はすこの人ゝもいかにおもふらんまたえしり給はてのちにいさゝかもきゝ給ことあらんにつれなくてありしよとおほしあはせむもいみしうはつかしけれは又ふし給ぬ心ちのいみしうなやましきかなやかてなをらぬさまにもありなむいとめやすかりぬへくこそあしのけのゝほりたる心ちすとおしくたさせ給ふものをいとくるしうさま　くにおほすにはけそあかりける少将うへにこの御事ほのめかしきこえける人こそはへけれいかなりしことそととはせ給つれはありのまゝにきこえさせてみさうしのかためはかりをなむすこしことそへてけさやかにきこえさせつるもしさやうにかすめきこえさせ給はゝおなしさまにきこえさせ給へとまうすなけい給へるけしきはきこえ出すされはよといとわひしくて物もの給はぬ御まくらよりしつくそおつるこのことにのみもあらす身のおもはすになりそめしよりいみしうものをのみおもはせたてまつることゝいけるかひなくおもひつゝけ給てこの人はかうてもやまてとかくいひかゝつらひいてむもわつらはしうきゝくるしかるへうよろつにおほすまいていふかひなく人のことによりていかなるなをくたさましなとすこしおほしなくさむるかたはあれとかはかりになりぬるたかき人のかくまてもすゝろに人にみゆるやうはあらしかしとすくせうくおほしくしてゆふつかたそなほわたらせ給へとあれは中のぬりこめのとあけあはせてわたり給へるくるしき御心ちにもなのめならすかしこまりかしつききこえ給つねの御さほふあやまたすおきあかりたまうていとみたりかはしけにはへれはわたらせ給ふも心くるしうてなんこのふつかみか許みたてまつらさりけるほとのとし月の心ちするもかつはいとはかなくなむのちかならすしもたいめのはへるへきにも侍らさめり又めくりまいるともかひやははへるへきおもへはたゝ時のまにへたゝりぬへき世中をあなかちにならひはへりにけるもくやしきまてなんなとなき給ふ宮も物のみかなしうとりあつめおほさるれはきこえ給こともなくてみたてまつり給ものつゝみをいたうし給本上にきは　くしうの給ひさはやくへきにもあらねははつかしとのみおほすにいと　くおしうていかなりしなともとひきこえ給はすおほとなふらなといそきまいらせて御たいなとこなたにてまいらせ給ものきこしめさすときゝ給てとかうてつからまかなひなをしなとし給へとふれ給へくもあらすたゝ御

心ちのよろしうみえ給そむねすこしあけ給ふかしこより又御ふみあり心しらぬ人しもとりいれて大将殿より少将の君にとて御つかひありといふそ又わひしきや少将御ふみはとりつ宮す所いかなる御ふみにかとさすかにとひ給ふ人しれすおほしよはる心もそひてしたにまちきこえ給けるにさもあらぬなめりとおもほすも心さはきしていてその御ふみなをきこえ給へあいなし人の御なをよさまにいひなをす人はかたきものなりそこに心きようおほすともしかもちゐるひとはすくなくこそあらめ心うつくしきやうにきこえかよひ給てなをありしまゝならむこそよからめあいなきあまえたるさまなるへしとてめしよすくるしけれとたてまつりつあさましき御心のほとをみたてまつりあらはいてこそ中　く心やすくひたふる心もつき侍ぬへけれ

　せくからにあさゝそみえんやま河のなかれてのなをつゝみはてすはとことはもおほかれとみもはて給はすこの御ふみもけさやかなるけしきにもあらてめさましけに心ちよかほにこよひつれなきをいといみしとおほすこかむの君の御心さまのおもはすなりし時いとうしとおもひしかと大かたのもてなしは又ならふ人なかりしかはこなたにちからある心ちしてなくさめしたによには心もゆかさりしをあないみしやおほとのゝわたりにおもひのたまはむことゝ思ひしみ給なをいかゝの給とけしきをたにみむと心ちのかきみたりくるゝやうにし給ふめをししほりてあやしきとりのあとのやうにかき給ふたのもしけなくなりにてはへるとふらひにわたり給へるおりにてそゝのかしきこゆれといとはれ　くしからぬさまにものし給めれはみたまへわつらひてなむ

　をみなへししほるゝのへをいつことて一よはかりのやとをかりけむとたゝかきさしておしひねりていたし給てふし給ぬるまゝにいといたくくるしかり給ふ御ものゝけのたゆめけるにやと人〳〵いひさはくれいのけむあるかきりいとさはかしうのゝしる宮をはなをわたらせ給ひねと人〳〵きこゆれと御身のうきまゝにをくれきこえしとおほせはつとそひ給へり大将殿はこのひるつかた三条殿におはしにけるこよひたちかへりまて給はむにことしもありかほにまたきにきゝくるしかるへしなとねむし給ていと中　くとしころの心もとなさよりもちへにものおもひかさねてなけき給北の方はかゝる御ありきのけしきほのきゝて心やましときゝゐ給へるにしらぬやうにてきむたちもてあそひまきらはしつゝわかひるのおましにふし給へりよひすくるほとにそこの御返もてまいれるをかくれいにもあらぬとりのあとのやうなれはとみにもみとき給はて御となふらちかうとりよせてみ給女君ものへたてたるやうなれといとゝくみつけ給うてはひより

て御うしろよりとりたまうつあさましうこはいかにし給うそあなけしからす六条のひんかしのうへの御ふみなりけさ風おこりてなやましけにし給へるを院のおまへにはへりていてつるほと又もまうてすなりぬれはいとおしさにいまのまいかにときこえたりつるなりみ給へよけさうひたるふみのさまかさてもなを

くしの御さまやとし月にそへていたうあなつり給こそうれたけれおもはむ所をむけにはち給はぬよとうちうめきておしみかほにもひこしろい給はねはさすかにふともみてもたまへりとし月にそふるあなつらはしさは御心ならひなへかめりとはかりかくうるはしたちたまへるにはゝかりてわかやかにおかしきさましての給へはうちわらひてそはともかくもあらむよのつねの事なりまたあらしかしよろしうなりぬるをのこのかくまかふ方なくひとつところをまもらへてものおちしたるとりのせうやうのものゝやうなるはいかに人わらふらんさるかたくなしきものにまもられ給は御ためにもたけからすやあまたか中に猶きはまさりことなるけちめみえたるこそよそのおほえも心にくゝわか心ちもなをふりかたくおかしきこともあはれなるすちもたえさらめかくおきなのなにかしまもりけんやうにおれまとひたれはいとそくちおしきいつこのはえかあらむとさすかにこのふみのけしきなくをこつりとゝむの心にてあさむき申給へはいとにほひやかにうちわらひてものゝはえ　くしさつくりいて給ふほとふりぬる人くるしやいといまめかしさもみならはすなりにける事なれはいとなむくるしきかねてよりならはし給はてとかこち給もにくゝもあらすにはかにとおほすはかりにはなに事かみゆらむいとうたてある御心のくまかなよからす物きこえしらする人そあるへきあやしうもとよりまろをはゆるさぬそかし猶かのみとりのそてのなこりあなつらはしきにことつけてもてなしたてまつらむとおもふやうあるにやいろ　くきゝにくき事ともほのめくめりあいなき人の御ためにもいとほしうなとの給へとついにあるへき事とおほせはことにあらかはす大夫のめのといとくるしときゝてものもきこえすとかくいひしろひてこの御ふみはひきかくし給つれはせめてもあさりとらてつれなくおほとのこもりぬれはむねはしりていかてとりてしかなと宮す所の御ふみなめりなにことありつらむとめもあはすおもひふしたまへり女君のねたまへるによへのおましのしたなとにさりけなくてさくり給へとなしかくしたまへらむ程もなけれはいと心やましくてあけぬれととみにもおき給はす女君はきむたちにおとろかされてゐさりいて給にそわれもいまおき給ふやうにてよろつにうかゝひ給へとえみつけ給はす女なはかくもとめむとも思給へらぬをそけにけさうなき御ふみなりけりと心にもいれねはきむたち

のあはてあそひあひてひゝなつくりひろひすゑてあそひ給ふふみよみてならひなとさま　くにいとあはたゝしちいさきちこはひかゝりひきしろへはとりしふみのこともおもひいて給はすおとこはこと事もおほえ給はすかしこにとくきこえんとおほすによへの御ふみのさまもえたしかにみすなりにしかはみぬさまならむもちらしてけるとおしはかり給へしなとおもひみたれ給ふたれも　く御たいまいりなとしてのとかになりぬるひるつかたおもひわつらひてよへの御ふみはなにことかありしあやしうみせ給はてけふもとふらひきこゆへしなやましうて六条にもえまいるましけれはふみをこそはたてまつらめなにことかありけむとの給かいとさりけなけれはふみはおこかましうとりてけりとすさましうてそのことをはかけ給はす一夜の御山風にあやまり給へるなやましさなゝりとおかしきやうにかこちきこえ給へかしときこえ給ふいてこのひか事なつねにの給そなにのおかしきやうかあるよひとになすらへ給うこそ中　くはつかしけれこの女はうたちもかつはあやしきまめさまをかくの給とほゝゑむらむものをとたはふれことにいひなしてその文よいつらとの給へととみにもひきいて給はぬほとになをものかたりなときこえてしはしふし給へるほとにくれにけりひくらしのこゑにおとろきて山のかけいかにきりふたかりぬらむあさましやけふこの御返事をたにといとをしうてたゝしらすかほにすゝりおしすりていかになしてしにかとりなさむとなかめおはするおましのおくのすこしあかりたるところを心みにひきあけ給へれはこれにさしはさみ給へるなりけりとうれしうもおこかましうもおほゆるにうちゑみてみ給ふにかう心くるしき事なむありけるむねつふれて一夜のことを心ありてきゝ給ふけるとおほすにいとおしう心くるしよへたにいかにおもひあかしたまうけむけふもいまゝてふみをたにといはむかたなくおほゆいとくるしけにいふかひなくかきまきらはし給へるさまにておほろけにおもひあまりてやはかくかき給ふつらむつれなくてこよひのあけつらむといふへきかたのなけれは女君そいとつらう心うきすゝろにかくあたえかくしていてやわかならはしそやとさま　くに身もつらくすへてなきぬへき心ちし給やかていてたち給はむとするを心やすくたいめもあらさらむものから人もかくの給いかならむかん日にもありけるをもしたまさかにおもひゆるしたまはゝあしからむなをよからむ事をこそとうるはしき心におほしてまつこの御返をきこえ給ふいとめつらしき御ふみをかた　くうれしうみたまふるにこの御とかめをなんいかにきこしめしたることにか

秋のゝの草のしけみはわけしかとかりねのまくらむすひやはせしあきらめ

きこえさするもあやなけれとよへのつみはひたやこもりにやとありみやにはいとおほくきこえたまてみまやにあしとき御むまにうつしをきて一夜のたいふをそたてまつれ給よへより六条の院にさふらひてたゝいまなむまかてつるといへとていふへきやうさゝめきをしへ給ふかしこにはよへもつれなくみえ給し御けしきをしのひあへてのちのきこえをもつゝみあへすうらみきこえたまうしをその御返たにみえすけふのくれはてぬるをいかはかりの御心にかはともてはなれてあさましう心もくたけてよろしかりつる御心ち又いといたうなやみ給中　く
さうしみの御心の内はこのふしをことにうしともおほしおとろくへきことしなけれはたゝおほえぬ人にうちとけたりしありさまをみえしことはかりこそくちおしけれいとしもおほししまぬをかくいみしうおほいたるをあさましうはつかしうあきらめきこえ給かたなくてれいよりもものはちし給へるけしきみえ給をいと心くるしう物をのみおもほしそふへかりけるとみたてまつるもむねつとふたかりてかなしけれはいまさらにむつかしきことをはきこえしとおもへとなを御すくせとはいひなからおもはすにをさなくてひとのもときをおひ給ふへき事をとりかへすへき事にはあらねといまよりはなをさる心したまへかすならぬ身なからもよろつにはくゝみきこえつるをいまはなに事をもおほししり世中のとさまかうさまのありさまをもおほしたとりぬへき程にみたてまつりをきつることゝそなたさまはうしろやすくこそみたてまつりつれなをいといはけてつよき御心をきてのなかりける事とおもひみたれ侍にいましはしのいのちもとゝめまほしうなむたゝ人たにすこしよろしくなりぬる女の人ふたりとみるためしは心うくあわつけきわさなるをましてかゝる御身にはさはかりおほろけにて人のちかつききこゆへきにもあらぬをおもひのほかにこゝろにもつかぬ御ありさまとしころもみたてまつりなやみしかとさるへき御すくせにこそは院よりはしめたてまつりておほしなひきこのちゝおとゝにもゆるい給ふへき御けしきありしにをのれひとりしも心をたてゝもいかゝはとおもひより侍しことなれはするゑの世まてものしき御ありさまをわか御あやまちならぬに大空をかこちてみたてまつりすくすをいとかう人のためわかためのよろつにきゝにくかりぬへきことのいてきそひぬへきかさてもよその御なをはしらぬかほにてよのつねの御ありさまにたにあらはをのつからありへんにつけてもなくさむこともやとおもひなし侍るをこよなうなさけなき人の御心にもはへりけるかなとつふ　くとなき給ふいとわりなくおしこめての給ふをあらかひはるけむ事のはもなくてたゝうちなき給へるさまおほとかにらうたけなりうちまもりつゝあはれなに事かは人にを

とり給へるいかなる御すくせにてやすからすものをふかくおほすへきちきりふかゝりけむなとの給まゝにいみしうくるしうし給ふものゝけなともかゝるよはめに所うるものなりけれはにはかにきえ入てたゝひえにひえいり給ふりしもさはきたち給うてくわむなとたてのゝしり給ふかきちかひにていまは命をかきりける山こもりをかくまておほろけならすいてたちてたむこほちてかへりいらむことのめいほくなく仏もつらくおほえ給へき事を心をおこしていのり申給ふ宮のなきまとひ給ことといとことはりなりかしかくさはく程に大将殿より御ふみとりいれたるほのかにきゝ給てこよひもおはすましきなめりとうちきゝ給ふ心うくよのためしにもひかれ給へきなめりなにゝわれさへさる事のはをのこしけむとさま　くおほしいつるにやかてたえいりたまひぬあえなくいみしといへはをろかなりむかしよりものゝけには時　くわつらひ給ふかきりとみゆるおり　くもあれはれいのことゝりいれたるなめりとてかちまいりさはけといまはのさましるかりけり宮はをくれしとおほしいりてつとそひふし給へり人ゝまいりていまはいふかひなしいとかうおほすともかきりあるみちはかへりおはすへき事にもあらすしたひきこえたまふともいかてか御心にはかなふへきとさらなることはりをきこえていとゆゝしうなき御ためにもつみふかきわさなりいまはさらせ給へとひきうこかいたてまつれとすくみたるやうにてものもおほえ給はすす法のたんこほちてほろ　くといつるにさるへきかきりかたへこそたちとまれいまはかきりのさまいとかなしう心ほそし所　くの御とふらひいつのまにかとみゆ大将殿もかきりなくきゝおとろき給うてまつきこえ給へり六条の院よりもちしの大殿よりもすへてゝいとしけうきこえ給ふ山のみかともきこしめしていとあはれに御ふみかい給へり宮はこの御せうそこにそ御くしもたけ給ひころをもくなやみ給ときゝわたりつれとれいもあつしうのみきゝはへりつるならひにうちたゆみてなむかひなきことをはさる物にておもひなけい給ふ覧ありさまをしはかるなむあはれに心くるしきなへてのよのことはりにおほしなくさめ給へとありめもみえたまはねと御返きこえたまふつねにさこそあらめとの給けることとてけふやかておさめたてまつるとて御をひの山とのかみにてありけるそよろつにあつかひきこえけるからをたにしはしみたてまつらむとて宮はおしみきこえ給けれとさてもかひあるへきならねはみないそきたちてゆゝしけなる程にそ大将おはしたるけふよりのち日ついてあしかりけりなと人きゝにはの給いていともかなしうあはれに宮のおほしなけく覧ことをおしはかりきこえ給うてかくしもいそきわたり給へきことならすと人ゝいさめきこゆれとしゐておはしましぬほ

とさへとをくていり給ふほといと心すこしゆゝしけにひきへたてめくらしたるきしきの方はかくしてこの西おもてにいれたてまつる山とのかみいてきてなく

くかしこまりきこゆつまとのすのこにおしかゝり給うて女はうよひいてさせ給ふにあるかきりこゝろもおさまらすものおほえぬ程なりかくわたり給へるにそいさゝかなくさめて少将の君はまいる物もえの給ひやらすなみたもろにおはせぬこゝろつよさなれと所のさま人のけはひなとをおほしやるもいみしうてつねなきよの有さまの人のうへならぬもいとかなしきなりけりやゝためらひてよろしうをこたり給さまにうけたまはりしかはおもたまへたゆみたりし程にゆめもさむるほとはへなるをいとあさましうなむときこえ給へりおほしたりしさまこれにおほくは御心もみたれにしそかしとおほすにさるへきとはいひなからもいとつらき人の御ちきりなれはいらへをたにしたまはすいかにきこえさせ給とかきこえはへるへきいとかるらかならぬ御さまにてかくふりはへいそきわたらせ給へる御心はへをおほしわかぬやうならむもあまりに侍ぬへしとくち　くきこゆれはたゝおしはかりてわれはいふへきこともおほえすとてふし給へるもことはりにてたゝいまはなき人とことならぬ御ありさまにてなむわたらせ給へるよしはきこえさせ侍りぬときこゆこの人ゝもむせかへるさまなれはきこえやるへきかたもなきをいますこしみつからもおもひのとめ又しつまり給なむにまいりこむいかにしてかくにはかにとその御ありさまなむゆかしきとの給へはまほにはあらねとかのおもほしなけきしありさまをかたはしつゝきこえてかこちきこえさするさまになむなり侍ぬへきけふはいとゝみたりかはしき心ちとものまとひにきこえさせたかふることともゝはへりなむさらはかくおほしまとへる御心ちもかきりあることにてすこししつまらせ給ひなむほとにきこえさせうけ給らんとてわれにもあらぬさまなれはのたまひいつることもくちふたかりてけにこそやみにまとへる心ちすれなをきこえなくさめ給ていさゝかの御返もあらはなむなとの給ひをきてたちわつらひ給もかる　くしうさすかに人さはかしけれはかへり給ぬこよひしもあらしとおもひつる事とものしたゝめいとほとなくきは　くしきをいとあえなしとおほいてちかきみさうの人ゝめしおほせてさるへき事ともつかふまつるへくをきてさためていて給ぬことのにはかなれはそくやうなりつる事ともいかめしう人かすなともそひてなむ山とのかみもありかたき殿の御心をきてなとよろこひかしこまりきこゆなこりたになくあさましき事と宮はふしまろひ給へとかひなしおやときこゆともいとかくはならはすましきものなりけりみたてまつる人ゝもこの御事を又ゆゝしうなけききこゆ山とのかみ

のこりのことゝもしたゝめてかく心ほそくてはえおはしまさしいと御心のひまあらしなときこゆれとなをみねのけふりをたにけちかくておもひいてきこえむとこの山さとにすみはてなむとおほいたり御いみにこもれるそうはひんかしおもてそなたのわた殿しもやなとにはかなきへたてしつゝかすかにゐたりにしのひさしをやつして宮はおはしますあけくるゝもおほしわかねと月ころへけれは九月になりぬ山おろしいとはけしうこのはのかくろへなくなりてよろつの事いといみしき程なれは大かたのそらにもよほされてひるまもなくおほしなけきいのちさへ心にかなはすといとはしういみしうおほすさふらふ人〳〵もよろつにものかなしうおもひまとへり大将殿は日〳〵にとふらひきこえたまふさひしけなるねん仏のそうなとなくさむはかりよろつのものをつかはしとふらはせ給ひ宮の御前にはあはれに心ふかき事のはをつくしてうらみきこえかつはつきもせぬ御とふらひをきこえ給へととりてたに御らんせすゝすろにあさましきことをよわれる御心ちにうたかひなくおほししみてきえうせ給にしことをおほしいつるにのちのよの御つみにさえやなるらむとむねにみつ心ちしてこの人の御ことをたにかけてきゝ給ふはいとゝつらく心うきなみたのもよほしにおほさる人〳〵もきこえわつらひぬひとくたりの御返をたにもなきをしはしは心まとひし給へるなとおほしけるにあまりにほとへぬれはかなしきこともかきりあるをなとかかくあまりみしり給はすはあるへきいふかひなくわか　くしきやうにとうらめしう事ことのすちに花やてうやとかけはこそあらめわか心にあはれとおもひものなけかしきかたさまの事をいかにととふ人はむつましうあはれにこそおほゆれ大宮のうせ給へりしをいとかなしと思しにちしのおとゝのさしもおもひ給へらすことはりの世のわかれにおほやけ　くしきさほうはかりのことをけうし給しにつらく心つきなかりしに六条院の中　くねんころにのちの御事をもいとなみ給うしかわかゝたさまといふなかにもうれしうみたてまつりしそのおりにこゑもむのかみをはとりわきておもひつきにしそかし人からのいたうしつまりてものをいたうおもひとゝめたりし心にあはれもまさりて人よりふかゝりしかなつかしうおほえしなとつれ　くとものをのみおほしつゝけてあかしくらし給ふ女君なをこの御中のけしきをいかなるにかありけむ宮す所とこそ文かよはしもこまやかにし給めりしかなとおもひえかたくてゆふ暮の空をなかめいりてふし給へる所にわか君してたてまつれ給へるはかなきかみのはしに

あはれをもいかにしりてかなくさめむあるやこひしきなきやかなしきおほつかなきこそ心うけれとあれはほゝゑみてさき　くもかくおもひよりての給ふ

にけなのなきかよそへやとおほすいとゝしくことなしひに

いつれとかわきてなかめんきえかへる露も草はのうへとみぬよをおほかた

にこそかなしけれとかいたまへりなをかくへたて給へることゝつゆのあはれを

はさしをきてたゝならすなけきつゝおはすなほかくおほつかなくおほしわひて

又わたり給へり御いみなとすくしてのとやかにとおほししつめけれとさまても

えしのひ給はすいまはこの御なきなのなにかはあなかちにもつゝまむたゝよつ

きてつゐのおもひかなふへきにこそはとおほしたはかりにけれは北の方の御思

ひやりをあなかちにもあらかひきこえ給はすさうしみはつようおほしはなると

もかのひとよはかりの御うらみふみをとらへところにかこちてえしもすゝきは

て給はしとたのもしかりけり九月十よ日の山のけしきはふかくみしらぬ人たに

たゝにやはおほゆる山風にたへぬ木ゝのこすゐもみねのくすはもこゝろあはた

ゝしうあらそひちるまきれにたうときと経のこゑかすかに念仏なとのこゑはか

りして人のけはひいとすくなうこからしのふきはらひたるに鹿はたゝまかきの

もとにたゝすみつゝ山田のひたにもおとろかすいろこきいねともの中にましり

てうちなくもうれへかほなりたきのこゑはいとゝ物思ふ人をおとろかしかほに

みゝかしかましうとゝろきひゝくくさむらのむしのみそより所なけになきよは

りてかれたるくさのしたよりりんたうのわれひとりのみ心なかうはひいてゝ露

けくみゆるなとみなれいのころのことなれとおりから所からにやいとたへかた

きほとのものかなしさなりれいのつまとのもとにたちよりたまてやかてなかめ

いたしてたち給へりなつかしき程のなをしに色こまやかなる御そのうちめいと

けうらにすきてかけよはりたる夕日のさすかになに心もなうさしきたるにまは

ゆけにわさとなくあふきをさしかくし給へるてつき女こそかうはあらまほしけ

れそれたにえあらぬをとみたてまつるものおもひのなくさめにしつへくゑまし

きかほのにほひにて少将の君をとりわきてめしよすすのこのほともなけれとお

くに人やそひゐたらんとうしろめたくてえこまやかにもかたらひ給はすなをち

かくてなはなち給そかく山ふかくわけ入心さしはへたてのこるへくやはきりも

いとふかしやとてわさともみいれぬさまに山のかたをなかめてなを　くとせち

にの給へはにひいろのき丁をすたれのつまよりすこしおしいてゝすそをひきそ

はめつゝゐたり山とのかみのいもうとなれははなれたてまつらぬうちにをさな

くよりおほしたてたまうけれはきぬの色いとこくてつるはみのきぬひとかさね

こうちきゝたりかくつきせぬ御事はさるものにてきこえなむ方なき御心のつら

さをおもひそふるに心たましゐもあくかれはてゝみる人ことにとかめられはへ

れはいまはさらにしのふへきかたなしといとおほくうらみつゝけ給かのいまはの御ふみのさまもの給ひいてゝいみしうなき給ふこの人もましていみしうなき入つゝその夜の御かへりさへみえはへらすなりにしをいまはかきりの御心にやかておほし入てくらうなりにしほとの空のけしきに御心ちまとひにけるをさるよはめにれいの御ものゝけのひきいれたてまつるとなむみ給へしすきにし御事にもほと　く御心まとひぬへかりしおり　くおほくはへりしを宮のおなしさまにしつみたまうしをこしらへきこえんの御心つよさになむやう　く物おほえたまうしこの御なけきをはおまへにはたゝわれかの御けしきにてあきれてくらさせ給うしなととめかたけにうちなけきつゝはか　くしうもあらすきこゆそよやそもあまりにおほめかしういふかひなき御こゝろなりいまはかたしけなくともたれをかはよるへにおもひきこえ給はん御山すみもいとふかきみねに世中をおほしたえたるくものなかなめれはきこえかよひ給はむことかたしいとかく心うき御けしききこえしらせたまへよろつのことさるへきにこそよにありへしとおほすともしたかはぬよなりまつはかゝる御わかれの御心にかなはゝあるへき事かはなとよろつにおほくの給へときこゆへき事もなくてうちなけきつゝゐたりしかのいといたくなくをわれをとらめやとて

　里とをみをのゝしのはらわけてきてわれもしかこそこゑもおしまねとの給へは

　ふちころも露けき秋の山ひとはしかのなくねにねをそそへつるよからねとおりからにしのひやかなるこわつかひなとをよろしうきゝなし給へり御せうそことかうきこえ給へといまはかくあさましき夢のよをすこしもおもひさますおりあらはなんたえぬ御とふらひもきこえやるへきとのみすくよかにいはせ給いみしういふかひなき御心なりけりとなけきつゝ返給みちすからもあはれなる空をなかめて十三日の月のいとはなやかにさしいてぬれはをくらの山もたとるましうおはするに一条の宮はみちなりけりいとゝうちあはれてひつしさるのかたのくつれたるをみいるれははる　くとおろしこめて人かけもみえす月のみやり水のおもてをあらはにすみましたるに大納言こゝにてあそひなとしたまうしおり　くをおもひいて給

　みし人のかけすみはてぬ池水にひとりやともる秋の夜の月とひとりこちつゝ殿におはしても月をみつゝ心はそらにあくかれ給へりさもみくるしうあらさりし御くせかなとこたちもにくみあへりうへはまめやかに心うくあくかれたちぬる御心なめりもとよりさるかたにならひ給へる六条院の人ゝをともすれはめ

てたきためしにひきいてつゝ心よからすあいたちなき物におもひ給へるわりなしやわれもむかしよりしかならひなましかは人めもなれて中　くすこしてまし世のためしにしつへき御心はへとおやはらからよりはしめたてまつりめやすきあへ物にし給へるをあり　くてはすゑにはちかましきことやあらむなといいたうなけいたまへりよあけかたちかくかたみにうちいて給ふことなくてそむき　くになけきあかしてあさきりのはれまもまたすれいのふみをそいそきかきたまふいと心つきなしとおほせとありしやうにもはひ給はすいとこまやかにかきてうちをきてうそふき給ふしのひたまへともりてきゝつけらる

　いつとかはおとろかすへきあけぬよのゆめさめてとかいひしひとことうへよりおつるとやかい給つらむおしつゝみてなこりもいかてよからむなとくちすさひ給へり人めして給ひつ御返事をたにみつけてしかななをいかなることそとけしきみまほしうおほすひたけてそもてまいれるむらさきのこまやかなるかみすくよかにてこ少将それいのきこえたるたゝおなしさまにかひなきよしをかきていとおしさにかのありつる御ふみにてならひすさひたまへるをぬすみたるとて中にひきやりて入たるめにはみ給うてけりとおほすはかりのうれしさそいと人わろかりけるそこはかとなくかき給へるをみつゝけ給へれは

　あさゆふになくねをたつるをの山はたえぬなみたやをとなしの滝とやとりなすへからむふることなと物おもはしけにかきみたり給へる御てなともみところあり人のうへなとにてかやうのすき心おもひいらるゝはもとかしううつし心ならぬことにみきゝしかとみの事にてはけにいとたえかたかるへきわさなりけりあやしやなとかうしもおもふへき心いられそとおもひかへし給へとえしもかなはす六条院にもきこしめしていとおとなしうよろつをおもひしつめ人のそしり所なくめやすくてすくし給をおもたゝしうわかいにしへすこしあされはみあたなるなをとりたまうしおもておこしにうれしうおほしわたるをいとおしういつかたにもこゝろくるしきことのあるへき事さしはなれたるなからひにてたにあらておとゝなともいかにおもひ給はむさはかりの事たとらぬにはあらしすくせといふ物のかれわひぬる事なりともかくもくちいるへきことならすとおほす女のためのみにこそいつかたにもいとおしけれとあいなくきこしめしなけくむらさきのうへにもきしかたゆくさきのことおほしいてつゝかうやうのためしをきくにつけてもなからむのちうしろめたうおもひきこゆるさまをの給へは御かほうちあかめて心うくさまてをくらかし給ふへきにやとおほしたり女はかりみをもてなすさまもところせうあはれなるへきものはなし物のあはれおりおかし

き事をもみしらぬさまにひきいりしつみなとすれはなにゝつけてかよにふるはえ　くしさもつねなき世のつれ　くをもなくさむへきそはおほかた物の心をしらすいふかひなきものにならひたらむもおほしたてけむおやもいとくちおしかるへきものにはあらすやこゝろにのみこめて無言太子とかこほうしはらのかなしきことにするむかしのたとひのやうにあしきことよきことをおもひしりなからうつもれなむもいふかひなしわか心なからもよき程にはいかてたもつへきそとおほしめくらすもいまはたゝ女一宮の御ためなり大将の君まいり給へるついてありておもたまへらむけしきもゆかしけれは宮す所のいみはてぬらんなきのふけふとおもふ程にみとせよりあなたのことになるよにこそあれあはれにあちきなしやゆふへのつゆかゝるほとのむさほりよいかてかこのかみそりてよろつそむきすてんとおもふをさものとやかなるやうにてもすくすかないとわろきわさなりやとのたまふまことにおしけなき人たちにこそはへめれなときこえて宮す所の四十九日のわさなとやまとのかみなにかしのあそむひとりあつかひはへるいとあはれなるわさなりやはか　くしきよすかなき人はいけるよのかきりにてかゝるよのはてこそかなしう侍けれときこえ給ふ院よりもとふらはせ給ふらんかのみこいかにおもひなけき給ふらんはやうきゝしよりはこのちかきとしころことにふれてきゝみるにこのかういこそくちおしからすめやすき人のうちなりけれおほかたのよにつけておしきわさなりやさてもありぬへき人のかううせゆくよ院もいみしうおとろきおほしたりけりかのみこゝそはこゝに物し給入道の宮よりさしつきにはらうたうしたまひけれ人さまもよくおはすへしとの給御こゝろはいかゝものし給らん宮す所は事もなかりし人のけはひ心はせになむしたしううちとけ給はさりしかとはかなき事のついてにをのつから人のようはあらはなるものになむはへるときこえ給て宮の御こともかけすいとつれなしかはかりのすくよけこゝろにおもひそめてんことといさめむにかなはしもちゐさらむものからわれさかしにことといてむもあいなしとおほしてやみぬかくて御法しによろつとりもちてせさせ給ふことのきこえをのつからかくれなけれはおほい殿なとにもきゝ給てさやはあるへきなとをむなかたのこゝろあさきやうにおほしなすそわりなきやかのむかしの御心あれはきむたちまてとふらひ給す行なととのよりもいかめしうせさせ給ふこれかれもさま　くおとらすし給へれは時の人のかやうのわさにをとらすなむありける宮はかくてすみはてなんとおほしたつことありけれと院に人のもらしそうしけれはいとあるましきことなりけにあまたとさまかうさまにみをもてなし給へきことにもあらねとうしろ

みなき人なむ中　くさるさまにてあるましきなをたちつみえかましき時このよのちのよ中そらにもとかしきとかおふわさなるこゝにかく世をすてたるに三宮のおなしことみをやつし給へるすへなきやうに人のおもひいふもすてたる身には思ひなやむへきにはあらねとかならすさしもやうのことゝあらそひ給はむもうたてあるへしよのうきにつけていとふは中　く人わろきわさなり心とおもひしつめ心すましてこそともかうもとたひ　くきこえ給ふけりこのうきたる御なをそきこしめしたるへきさやうのことのおもはすなるにつけてうし給へるといはれ給はんことをおほすなりけりさりとて又あらはれてものし給はむもあは

　くしう心つきなき事とおほしなからはつかしとおほさむもいとおしきをなにかはわれさへきゝあつかはむとおほしてなむこのすちはかけてもきこえ給はさりける大将もとかくいひなしつるもいまはあひなしかの御心にゆるし給はむことはかたけなめり宮す所の心しりなりけりと人にはしらせんいかゝはせむなき人にすこしあさきとかはおもはせていつありそめしことそともなくまきらはしてんさらかへりてけさうたちなみたをつくしかゝつらはむもいとうゐ　くしかるへしとおもひえたまうて一条にわたりたまふへき日その日はかりとさためてやまとのかみめしてあるへきさほうのたまひ宮のうちはらひしつらひさこそいへとも女とちは草しけうすみなし給へりしをみかきたるやうにしつらひなして御心つかひなとあるへきさほうめてたうかへしろ御ひやうふ御木丁おましなとまておほしよりつゝ山とのかみにの給てかのいへにそいそきつかうまつらせたまふその日我おはしゐて御くるまこせんなとたてまつれ給宮はさらにわたらしとおほしの給ふを人ゝいみしうきこえ山とのかみもさらにうけ給はらし心ほそくかなしき御ありさまをみたてまつりなけきこのほとの宮つかへはたふるにしたかひてつかうまつりぬいまはくにのこともはへりまかりくたりぬへし宮の内のこともみ給へゆつるへき人もはへらすいとたい　くしういかにとみ給ふるをかくよろつにおほしいとなむをけにこのかたにとりておも給ふるにはかならすしもおはしますましき御ありさまなれとさこそはいにしへも御心にかなはぬためしおほくはへれひとゝころやはよのもときをもおはせ給へきいとをさなくおはしますことなりたけうおほすとも女の御心ひとつにわか御身をとりしたゝめかへりみ給へきやうかあらむなを人のあかめかしつき給へらんにたすけられてこそふかき御心のかしこき御をきてもそれにかゝるへきものなりきみたちのきこえしらせたてまつり給はぬなりかつはさるましきことをも御心ともにつかうまつりそめ給うてといひつゝけて左近少将をせむあつまりてきこえこし

らふるにいとわりなくあさやかなる御そとも人〻のたてまつりかへさするもわれにもあらすなをいとひたふるにそきすてまほしうおほさるゝ御くしをかきいてゝみ給へは六尺はかりにてすこしほそりたれと人はかたはにもみたてまつらすみつからの御心にはいみしのおとろへや人にみゆへきありさまにもあらすさま〳〵に心うき身をとおほしつゝけて又ふし給ぬ時たかひぬよもふけぬへしとみなさはくしくれいとこゝろあはたゝしうふきまかひよろつにものかなしけれは

のほりにしみねのけふりにたちましりおもはぬかたになひかすもかな心ひとつにはつよくおほせとそのころは御はさみなとやうのものはみなとりかくして人〻のまもりきこえけれはかくもてさはかさらむにてたになにのおしけある身にてかおこかましうわか〳〵しきやうにはひきしのはむ人きゝもうたておほすましかへきわさをとおほせはそのほいのこともしたまはす人〻はみないそきたちてをの〳〵くしてはこからひつよろつのものをはか〳〵しからぬふくろやうの物なれとみなさきたてゝはこひたれはひとりとまり給へうもあらてなく

〳〵御くるまにのり給もかたはらのみまもられたまてこちわたりたまうし時御こゝちのくるしきにも御くしかきなてつくろひおろしたてまつり給しをおほしいつるにめもきりていみし御はかしにそへて経はこをそへたるか御かたはらもはなれねは

恋しさのなくさめかたきかたみにてなみたにくもる玉のはこかなくろきもまたしあへさせ給はすかのてならし給へりしらてんのはこなりけりす経にせさせ給しをかたみにとゝめたまへるなりけりうらしまのこか心ちなんおはしましつきたれは殿のうちかなしけもなく人けおほくてあらぬさまなり御くるまよせており給ふをさらにふるさとゝおほえすうとましううたておほさるれはとみにもおり給はすいとあやしうわか〳〵しき御さまかなと人〻もみたてまつりわつらふ殿はひんかしのたいのみなみをもてをわか御方をかりにしつらひてすみつきかほにおはす三条殿には人〻にはかにあさましうもなり給ひぬるかないつのほとにありし事そとおとろきけりなよらかにをかしはめることをこのましからすおほす人はかくゆくりかなる事そうちましりたまうけるされととしへにけることををとなくけしきももらさてすくし給うけるなりとのみおもひなしてかく女の御心ゆるいたまはぬと思よる人もなしとてもかうても宮の御ためにそいとおしけなる御まうけなとさまかはりて物のはしめゆゝしけなれとものまいらせなとみなしつまりぬるにわたりたまて少将の君をいみしうせめ給ふ御心さしま

ことになかうおほされはけふあすをすくしてきこえさせ給へ中　くたちかへり
て物おほししつみてなき人のやうにてなむふさせ給ひぬるこしらへきこゆるを
もつらしとのみおほされたれはなにことも身のためこそはへれいとわつらはし
うきこえさせにくゝなむといふいとあやしうをしはかりきこえさせしにはたか
ひていはけなく心えかたき御心にこそありけれとておもひよれるさま人の御た
めもわかためにも世のもときあるましうの給つゝくれはいてやたゝいまは又い
たつら人にみなしたてまつるへきにやとあはたゝしきみたり心ちによろつおも
たまへわかれすあか君とかくをしたちてひたふるなる御心なつかはせ給そとて
をするいとまたしらぬよかなにくゝめさましと人よりけにおほしおとすらんみ
こそいみしけれいかて人にもことはらせむといはむかたもなしとおほしての給
へはさすかにいとおしうもありまたしらぬはけによつかぬ御こゝろかまへのけ
にこそはとことはりはけにいつかたにかはよる人はへらんとすらむとすこしう
ちわらひぬかく心こはけれといまはせかれ給へきならねはやかてこの人をひき
たてゝおしはかりにいり給ふ宮はいと心うくなさけなくあはつけき人の心なり
けりとねたくつらけれはわか　くしきやうにはいひさはくともとおほしてぬり
こめにおましひとつしかせたまてうちよりさしておほとのこもりにけりこれも
いつまてにかはかはかりにみたれたちにたる人の心ともはいとかなしうくちお
しうおほすおとこきみはめさましうつらしと思ひきこえ給へとかはかりにては
なにのもてはなるゝことかはとのとかにおほしてよろつにおもひあかし給ふ山
とりの心ちそし給うけるからうしてあけかたになりぬかくてのみことゝいへは
ひたおもてなへけれはいて給ふとてたゝいさゝかのひまをたにといみしうきこ
え給へといとつれなし

　うらみわひむねあきかたき冬のよにまたさしまさる関のいはかときこえん
方なき御心なりけりとなく　くいて給ふ六条院にそおはしてやすらひ給ふひん
かしのうへ一条の宮わたしたてまつり給へることゝかの大殿わたりなとにきこ
ゆるいかなる御ことにかはといとおほとかにの給ふみき丁そへたれとそはより
ほのかにはなをみえたてまつり給ふさやうにもなをひとのいひなしつへきこと
に侍りこ宮す所はいとこゝろつようあるましきさまにいひはなちたまふしかと
かきりのさまに御心ちのよはりけるに又ゆつるへき人のなきやかなしかりけむ
なからむのちのうしろみにとやうなることのはへりしかはもとよりの心さしも
侍りしことにてかくおもたまへなりぬるをさま　くにいかに人あつかひはへら
むかしさしもあるましきをもあやしう人こそ物いひさかなき物にあれとうちは

らひつゝかのさうしみなむなをよにへしとふかうおもひたちてあまになりなむとおもひむすほゝれ給ふめれはなにかはこなたかなたにきゝにくゝもはへゝきをさやうにけむきはなれてもまたかのゆいこむはたかへしと思給へてたゝかくいひあつかひはへるなり院のわたらせ給へらんにもことのついてはへらはかうやうにまねひきこえさせ給へあり　くて心つきなき心つかうとおほしの給はむをはゝかりはへりつれとけにかやうのすちにてこそ人のいさめをもみつからの心にもしたかはぬやうに侍りけれとしのひやかにきこえ給ふ人のいつはりにやとおもひはへりつるをまことにさるやうある御けしきにこそはみなよのつねのことなれと三条のひめ君のおほさむこととこそいとおしけれのとやかにならひたまうてときこえ給へはらうたけにものたまはせなすひめ君かないとおにしうはへるさかなものをとてなとてかそれをもをろかにはもてなしはへらんかしこけれと御ありさまともにてもおしはからせ給へなたらかならむのみこそ人はついのことにははへめれさかなくことかましきもしはしはなまむつかしうわつらはしきやうにはゝからるゝことあれとそれにしもしたかひはつましきわさなれはことのみたれいてきぬるのちわれも人もにくけにあきたしやなをみなみのおとゝの御こゝろもちゐこそさま　くにありかたうさてはこの御かたの御心なとこそはめてたきものにはみたてまつりはてはへりぬれなとほめきこえ給へはわらひ給てものゝためしにひきいて給ほとに身の人わろきおほえこそあらはれぬへうさておかしき事は院のみつからの御くせをは人しらぬやうにいさゝかあた

　くしき御心つかひをはたいしとおほいていましめ申たまうしりう事にもきこえ給めるこそさかしたつ人のをのかうへしらぬやうにおほえはへれとの給へはさなむつねにこのみちをしもいましめおほせらるゝさるはかしこき御をしへならてもいとよくおさめてはへる心をとてけにおかしとおもひ給へり御まへにまいり給へれはかの事はきこしめしたれとなにかはきゝかほにもとおほいてたゝうちまもり給へるにいとめてたくきよらにこのころこそねひまさり給へる御さかりなめれさるさまのすきことをし給ふとも人のもとくへきさまもしたまはすおに神もつみゆるしつへくあさやかに物きよけにわかうさかりににほひをちらし給へりものおもひしらぬわか人の程にはたおはせすかたほなる所なうねひとゝのほり給へることはりそかし女にてなとかめてさらむかゝみをみてもなとかをこらさらむとわか御こなからもおほす日たけてとのにはわたり給へりいり給よりわかきみたちすき　くうつくしけにてまつはれあそひ給ふ女君は丁のうちにふし給へりいり給へれとめもみあはせたまはすつらきにこそはあめれとみ給

もことはりなれとははかりかほにももてなし給はす御そをひきやり給へれはいつことておはしつるそまろははやうしにきつねにおにとの給へはおなしくはなりはてなむとてとの給ふ御こゝろこそおによりけにもおははすれさまはにくけもなけれはえうとみはつましとなに心もなういひなし給もこゝろやましうてめてたきさまになまめいたまへ覧あたりにありふへきみにもあらねはいつちも　く　うせなむとするをかくたになおほしいてそあいなくとしころをへけるたにくやしきものをとておきあかり給へるさまはいみしうあひ行つきてにほひやかにうちあかみ給へるかほいとおかしけなりかく心をさなけにはらたちなし給へれはにやめなれてこのおにこそいまはおそろしくもあらすなりにたれかう　く　しきけをそへはやとたはふれにいひなし給へとなにこといふそおひらかにしにたまひね丸もしなむみれはにくしきけはあい行なしみすてゝしなむはうしろめたしとの給ふにいとおかしきさまのみまされはこまやかにわらひてちかくてこそみたまはさらめよそにはなにかきゝ給はさらむさてもちきりふかゝなるせをしらせむの御心なゝりにはかにうちつゝくへかなるよみちのいそきはさこそはちきりきこえしかといとつれなくいひてなにくれとなくさめこしらへきこえなくさめ給へはいとわかやかに心うつくしうらうたき心はたおはする人なれはなをさりことゝはみ給なからをのつからなこみつゝものし給をいとあはれとおほすものから心はそらにてかれもいとわか心をたてゝつようもの　く　しき人のけはひにはみえ給はねともしなをほいならぬことにてあまになともおもひなり給ひなはおこかましうもあへいかなと思ふにしはしはとたえをくましうあはたゝしき心ちして暮行まゝにけふも御かへりたになきよとおほして心にかゝりつゝいみしうなかめをし給きのふけふつゆもまいらさりけるものいさゝかまいりなとしておはすむかしより御ために心さしのをろかならさりしさまおとゝのつらくもてなしたまうしに世中のしれかましきなをとりしかとたへかたきをねんしてこゝかしこすゝみけしきはみしあたりをあまたきゝすくしゝありさまは女たにさしもあらしとなむ人もゝときしいまおもふにもいかてかはさありけむとわか心なからいにしへたにをもかりけりとおもひしらるゝをいまはかくにくみ給ともおほしすつましき人ゝいとところせきまてかすそふめれは御心ひとつにもてはなれ給へくもあらす又よしみたまへやいのちこそさためなき世なれとてうちなきたまふこともあり女もむかしのことをおもひいて給ふにあはれにもありかたかりし御中のさすかにちきりふかゝりけるかなとおもひいて給ふなよひたる御そともぬい給うて心ことなるをとりかさねてたきしめ給ひめてたうつくろひけ

さうしていて給ふをほかけにみいたしてしのひかたく涙のいてくれはぬきとめ
給へるひとへのそてをひきよせ給て

なるゝ身をうらむるよりは松しまのあまのころもにたちやかへましなをう
つし人にてはえすくすましかりけりとひとりことにの給をたちとまりてさも心
うき御こゝろかな

まつしまのあまのぬれきぬなれぬとてぬきかへつてふなをたゝめやはうち
いそきていとなを　くしやかしこにはなをさしこもり給へるを人ゝかくてのみ
やはわか　くしうけしからぬきこえもはへりぬへきをれいの御ありさまにてあ
るへきことをこそきこえ給はめなとよろつにきこえけれはさもあることゝはお
ほしなからいまよりのちのよそのきこえをもわか御心のすきにしかたをもこゝ
ろつきなくうらめしかりける人のゆかりとおほししりてそのよもたいめしたま
はすたはふれにくゝめつらかなりときこえつくし給ふ人もいとおしとみたてま
つるいさゝかも人心ちするおりあらむにわすれ給はすはともかうもきこえんこ
の御ふくのほとはひとすちにおもひみたるゝことなくてたにすくさむとなんふ
かくおほしの給はするをかくいとあやにくにしらぬ人なくなりぬめるをなをい
みしうつらき物にきこえ給ふときこゆおもふ心は又ことさまにうしろやすきも
のをおもはすなりける世かなとうちなけきてれいのやうにておはしまさはもの
こしなとにてもおもふことはかりきこえて御こゝろやふるへきにもあらすあま
たのとし月をもすくしつへくなむなとつきもせすきこえ給へとなをかゝるみた
れにそへてわりなき御こゝろなむいみしうつらき人のきゝおもはむこともよろ
つになのめならさりける身のうさをはさるものにてことさらにこゝろうき御心
かまへなれと又いひかへしうらみ給つゝはるかにのみもてなし給へりさりとて
かくのみやは人のきゝもらさむこともことはりとはしたなうこゝの人めもおほ
え給へは内ゝの御こゝろつかひは此のたまふさまにかなひてもしはしはなさけ
はまむよつかぬありさまのいとうたてあり又かゝりとてひきたえまいらすは人
の御ないかゝはいとおしかるへきひとへに物をおほしてをさなけなるこそいと
おしけれなとこの人をせめ給へはけにとおもひみたてまつるもいまは心くるし
うかたしけなうおほゆるさまなれは人かよはし給ふぬりこめのきたのくちより
いれたてまつりてけりいみしうあさましうつらしとさふらふ人をもけにかゝる
よの人の心なれはこれよりまさるめをもみせつへかりけりとたのもしき人もな
くなりはて給ぬる御身を返ゝかなしうおほすおとこはよろつにおほししるへき
ことはりをきこえしらせことのはおほうあはれにもおかしうもきこえつくし給

へとつらく心つきなしとのみおほいたりいとかういはむかたなきものにおもほされける身のほとはたくひなうはつかしけれはあるましき心のつきそめけむも心ちなくくやしうおほえはへれととりかへすものならぬ中になにのたけき御なにかはあらむいふかひなくおほしよはれおもふにかなはぬときみをなくるためしもはへなるをたゝかゝる心さしをふかきふちになすらへたまてすてつるみとおほしなせときこえ給ふひとへの御そを御くしこめひきくゝみてたけき事とはねをなき給ふさまの心ふかくいとおしけれはいとうたていかなれはいとかうおほす覧いみしう思ふ人もかはかりになりぬれはをのつからゆるふけしきもあるをいはきよりけになひきかたきはちきりとをうてにくしなとおもふやうあなるをさやおほす覧とおもひよるにあまりなれはこゝろうく三条の君のおもひたまふらんこといにしへもなに心もなうあひおもひかはしたりしよのこととしころいまはとうらなきさまにうちたのみとけ給へるさまを思ひいつるもわか心もていとあちきなうおもひつゝけらるれはあなかちにもこしらへきこえ給はすなけきあかし給うつかうのみしれかましうていていらむもあやしけれはけふはとまりて心のとかにおはすかくさへひたふるなるをあさましと宮はおほいていよ

くうとき御けしきのまさるをおこかましき御こゝろかなとかつはつらきものゝあはれなりぬりこめもことにこまかなるものおほうもあらてかうの御からひつみつしなとはかりあるはこなたかなたにかきよせてけちかうしつらひてそおはしけるうちはくらき心ちすれとあさひさしいてたるけはひもりきたるにうつもれたる御そひきやりいとうたてみたれたる御くしかきやりなとしてほのみたてまつり給ふいとあてに女しうなまめいたるけはひしたまへりおとこの御さまはうるはしたち給へるときよりもうちとけてものし給ふはかきりもなうきよけなりこ君のことなることなかりしたにこゝろのかきりおもひあかり御かたちまほにおはせすとことのおりにおもへりしけしきをおほしいつれはましてかういみしうをとろへにたるありさまをしはしにてもみしのひなんやとおもふもいみしうはつかしうとさまかうさまにおもひめくらしつゝわか御こゝろをこしらへ給ふたゝかたはらいたうこゝもかしこもひとのきゝおほさむ事のつみさらむかたなきにおりさへいと心うけれはなくさめかたきなりけり御てうつ御かゆなとれいのおましの方にまいれり色ことなる御しつらひもいま　くしきやうなれはひんかしおもては屏風をたてゝもやのきはにかうそめのみき丁なとこと　くしきやうにみえぬ物ちんのにかいなんとやうのをたてゝ心はへありてしつらひたり山とのかみのしわさなりけり人ゝもあさやかならぬ色の山吹かいねりこきき

ぬあをにひなとをきかへさせうすいろのもあをくちはなとをとかくまきらはして御たいはまいるをむなところにてしとけなくよろつのことならひたる宮のうちにありさま心とゝめてわつかなるしも人をもいひとゝのへこの人ひとりのみあつかひをこなふかくおほえぬやむことなきまらうとのおはするときゝてもとつとめさりけるけいしなとうちつけにまいりてまところなといふかたにさふらひていとなみけりかくせめてもみなれかほにつくり給ふほと三条殿かきりなめりとさしもやはとこそかつはたのみつれまめ人の心かはるはなこりなくなむときゝしはまことなりけりとよをこゝろみつる心ちしていかさまにしてこのなめけさをみしとおほしけれは大殿へかたゝかへむとてわたり給にけるを女御のさとにおはする程なとにたいめしたまうてすこしものおもひはるけところにおほされてれいのやうにもいそきわたりたまはす大将殿もきゝ給てされはよいときふにものし給ふ本上なりこのおとゝもはたおとな　くしうのとめたる所さすかになくいとひきゝりにはなやいたまへるひと　くにてめさましみしきかしなとひか　くしきこととともしいて給うつへきとおとろかれたまうて三条殿にわたり給へれは君たちもかたへはとまり給へれはひめ君たちさてはいとをさなきとをそゑておはしにけるみつけてよろこひむつれあるはうへをこひたてまつりてうれへなき給ふをこゝろくるしとおほすせうそこたひ　くきこえてむかへにたてまつれ給へと御返たになしかくかたくなしうかる　くしのよやとものしうおほえ給へとおとゝのみきゝ給はむところもあれはくらしてみつからまいり給へりしん殿になむおはするとてれいのわたり給かたはこたちのみさふらふわかきみたちそめのとにそひておはしけるいまさらにわか　くしの御ましらひやかゝる人をこゝかしこにおとしをき給てなとしむ殿の御ましらひはふさはしからぬ御こゝろのすちとはとしころみしりたれとさるへきにやむかしよりこゝろにはなれかたうおもひきこえていまはかくくた　くしき人のかす　くあはれなるをかたみにみすつへきにやはとたのみきこえけるはかなきひとふしにかうはもてなし給へくやといみしうあはめうらみまうし給へはなにこともいまはとみあきたまひにける身なれはいまはたなほるへきにもあらぬをなにかはとてあやしき人ゝはおほしすてすはうれしうこそはあらめときこえたまへりなたらかの御いらへやいひもていけはたかなかおしきとてしゐてわたり給へともなくてそのよはひとりふし給へりあやしう中そらなるころかなとおもひつゝ君たちをまへにふせ給てかしこに又いかにおほしみたるらんさまおもひやりきこえやすからぬ心つくしなれはいかなる人かうやうなることをかしうおほゆらんなとものこりし

ぬへうおほえ給あけぬれは人のみきかむもわか　くしきをかきりとのたまひはてはさて心みむかしこなる人ゝもらうたけにこひきこゆめりしをえりのこし給へるやうあらむとはみなからおもひすてかたきをともかくももてなしはへりなむとおとしきこえ給へはすか　くしき御心にてこの君たちをさへやしらぬところにゐてわたし給はんとあやふしひめ君をいさたまへかしみたてまつりにかくまいりくることもはしたなけれはつねにもまいりこしかしこにもひと　くのらうたきをおなし所にてたにみたてまつらんときこえ給ふまたいといはけなくおかしけにておはすいとあはれとみたてまつり給てはゝ君の御をしへになかなひたまうそいと心うくおもひとるかたなき心あるはいとあしきわさなりといひしらせたてまつり給ふおとゝかゝることをきゝ給て人わらはれなるやうにおほしなけくしはしはさてもみ給はてをのつから思所ものせらるらんものを女のかくひきゝりなるもかへりてはかるくおほゆるわさなりよしかくいひそめつとならはなにかはおれてふとしもかへり給ふをのつから人のけしき心はへはみえなんとのたまはせてこの宮にくら人の少将の君を御つかひにてたてまつり給ふ

ちきりあれや君をこゝろにとゝめをきてあはれとおもふうらめしときくなをえおほしはなたしとある御ふみを少将もておはしてたゝいりに入給ふみなみおもてのすのこにわらうたさしいてゝ人ゝものきこえにくし宮はましてわひしとおほすこの君はなかにいとかたちよくめやすきさまにてのとやかにみまはしていにしへをおもひいてたるけしきなりまいりなれにたる心ちしてうゐ　くしからぬにさも御覧しゆるさすやあらむなとはかりそかすめ給ふ御返いときこえにくゝてわれはさらにえかくましとのたまへは御心さしもへたてわか　くしきやうにせしかきはたきこえさすへきにやはとあつまりてきこえさすれはまつうちなきてこうへおはせましかはいかに心つきなしとおほしなからもつみをかくいたまはましとおもひいて給ふになみたのみつらきにさきたつ心ちしてかきやり給はす

なにゆへか世にかすならぬみひとつをうしともおもひかなしともきくとのみおほしけるまゝにかきもとちめ給はぬやうにてをしつゝみていたしたまうつ少将は人　くものかたりして時ゝさふらふにかゝるみすのまへはたつきなき心ちし侍るをいまよりはよすかある心ちしてつねにまいるへしないけなともゆるされぬへきとしころのしるしあらはれ侍る心ちなむしはへるなとけしきはみをきていて給ひぬいとゝしく心よからぬ御けしきあくかれまとひたまふほと大殿の君はひころふるまゝにおほしなけく事しけし内しのすけかゝることをきくに

われをよとゝもにゆるさぬものにのたまふなるにかくあなつりにくきこともいてきにけるをとおもひて文なとは時〻たてまつれはきこえたり

かすならはみにしられまし世のうさを人のためにもぬらす袖かななまけやけしとはみたまへとものゝあはれなるほとのつれ　くにかれもいとたゝにはおほえしとおほすかた心そつきにける

人のよのうきをあはれとみしかともみにかへんとはおもはさりしをとのみあるをおほしけるまゝとあはれにみるこのむかし御中たえのほとにはこの内しのみこそ人しれぬものにおもひとめ給へりしかことあらためてのちはいとたまさかにつれなくなりまさり給うつゝさすかにきんたちはあまたになりにけりこの御はらには太郎君三郎君五郎君六郎君なかの君四の君五の君とおはす内しは大きみ三の君六の君二郎君四郎君とそおはしけるすへて十二人か中にかたほなるなくいとおかしけにとり　くにおひいてたまける内侍はらのきんたちしもなんかたちおかしう心はせかとありてみなすくれたりける三の君二郎君はひんかしのおとゝにそとりわきてかしつきたてまつり給ふ院もみなれたまうていとらうたくし給ふこの御中らひのことゝひやるかたなくとそ